

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点  
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」  
 2019年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2020年4月25日 提出

1. 研究課題名	
日本のホラー映画における幽霊表象の研究: 歌舞伎の影響を中心に (英文課題名: Representation of Ghost in Japanese Horror Movies: Focusing on the Impact of Kabuki )	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
朴 美暎 (ぱく みぎょん)	京都大学
3. 研究分担者 (合計: 0 名)	

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>本研究では、日本と韓国における幽霊／鬼神の視覚イメージ(表象)の変遷、特に、日本の舞台芸術や映画における幽霊表現が韓国の鬼神イメージの形成に与えた影響や、それらの表象から読み取れる日韓の社会観、家族観、女性観の比較することを目指した。</p> <p>その一環として、日本の歌舞伎に登場する幽霊の姿形やしぐさなどが、後世の日本のホラー映画における幽霊表象にどのような影響を与えているのかを検討し、またその影響が60年代の韓国映画にも見られることを明らかにした。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>2019年11月末に発刊された『DNP 文化振興財団学術研究助成紀要』Vol. 2 に、論文「現代韓国映画における「鬼神」イメージ—日本の歌舞伎における幽霊表現の影響を中心に」(128-139頁)を寄稿した。本論文では、日本の歌舞伎に登場する幽霊の姿形やしぐさなどが、植民地時代(1910~1945年)の朝鮮にも影響を与えたという仮説を裏付けるために、当時の新聞である『京城日報』と『釜山日報』の広告欄を調査し、京城と釜山で日本のホラー映画(特に女性の幽霊が登場する『四谷怪談』、『番町皿屋敷』、『牡丹灯籠』、『累ヶ淵』の4作品)が多数上映されていたことを確認し、また、この4作品の名場面(同名歌舞伎の名場面でもある)が60年代の韓国映画『月下の共同墓地』にも見られることを明らかにした。</p> <p>そして、2019年12月21日に韓国外語大学で行われた韓国日語日文学会では、「현대 일본의 유령 이미지 형성에 있어서 가부키의 영향 (現代日本の幽霊イメージ形成における歌舞伎の影響)」というタイトルで口頭発表を行った。歌舞伎の名場面がどのように浮世絵に描かれ、また現代映画に伝わっているのかを『東海道四谷怪談』の具体的な資料をもとに検討した。本発表は、従来の研究が幽霊画などの芸術作品に注目していることに比べ、大衆向けのパフォーマンスに焦点を当てていることに特徴がある。</p>
6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)
(1) 著書
・『한국의 도깨비-도깨비를 통해 본 한국의 시각문화(韓国のドッケビードッケビから見る韓国の視覚文化)』、単著、2020年1月、高麗大学出版文化院

(2)論文

・「現代韓国映画における「鬼神」イメージ—日本の歌舞伎における幽霊表現の影響を中心に」『DNP 文化振興財団学術研究助成紀要』Vol. 2 (2019年11月) 128-139頁(査読無)

(3)研究発表等

・현대 일본의 유령 이미지 형성에 있어서 가부키의 영향 (現代日本の幽霊イメージ形成における歌舞伎の影響) 2019年12月21日、韓国日語日文学会(於韓国外語大学)(査読無)